

情報交差点・心と心の交わり

# あじまへ

大宜味村教育委員会

電話 44-3006

FAX 44-3020

半年ぶりの再会、西会津訪問



学校近くから見える 飯豊湖



西会津小学校 校舎



第28回 西会津  
雪国まつり

平成29年度・大宜味村「西会津町」体験の翼 2018.2.11



2月9日（金）～12日（月）の3泊4日、「体験の翼」交流団17名（児童生徒12名、引率5名）が西会津町へ交流してきました。7月に大宜味村で交流した西会津町の友達との久々の再会となりました。

ホームステイ先では雪国ならではの雪合戦やスキーなどの体験活動、西会津町の食や文化について学びました。

11日には西会津町雪国まつりが行われ、オープニングセレモニーでは雪上大宜味村児童生徒によるエイサー披露が行われました。12日には東京へ移動し国会議事堂やスカイツリーを見学しました。

寒波が押し寄せ天気が心配された体験の翼ですが、訪問中は活動しやすい天気となり、子どもたちにとって西会津町を満喫する思い出深い交流となりました。





### 新たな発見続出！芋から始まる楽しいおいしい勉強会♪

#### ちかーていんましまふとうば⑤ウムニーづくり

2月18日（日）、語呂合わせでしまふとうばとなるこの日、旧大宜味小学校家庭科室において、ぶながやの里生涯学習講座「ちかーていんましまふとうば⑤(ウムニーづくり)」が行われました。

普段のゆんたく会から少し趣向を変え、今回は島言葉を話しながらのウムニーづくり。各地域で使う材料や作り方も異なり、今回は大保と塩屋2つの作り方を試してみました。

大保の作り方はサンニンの茎を入れて芋を煮、火が通ったら、サンニンを取り出し、水を減らします。芋の上にサンニンの葉を敷いたらその上にこねたもち粉を入れ、芋と一緒に蒸し、もちが蒸しあがったら、芋ともちを一緒に混ぜるやり方。混ぜる棒もサンニンの茎を束ねたものを使います。



塩屋は少量の水で芋を煮、その間にもちを蒸し器で蒸します。芋が炊けて、もちが蒸しあがったら、一緒にして混ぜます。この時混ぜる棒は竹を3本束ねたものです。

双方とも芋ともちが一体化するよう、滑らかになるまでよく混ぜます。気が済むまで混ぜたらできあがり。



そして両方のウムニーを食べ比べながら、島言葉でゆんたく会。今回はクンスルが豆腐の汁を意味していることを初めて知ったり、芋の煮汁を飲むとお通じに効くということを知ったり最後まで話に花が咲きました。



### ニュースポーツを体験し各地域でも楽しもう！軽スポーツ講習会

今回行うスポーツはニチレクボールとラダーゲッター。種目名は聞きなれなくても、ルールは比較的に簡単で子供から高齢者まで誰もが手軽に行えるニュースポーツです。レクリエーションとしても楽しめる内容となっているので、お友達や気の合う仲間と一緒にご参加ください。

日時：平成30年3月11日（日） 午前9：30～11：30 予定

会場：旧大宜味小学校体育館

申込期間：2月26日（月）～3月7日（水） 先着15名

申込方法：教育委員会窓口または電話にて申込

参加料：100円（保険料含む）

参加対象：村内在住の方

※室内シューズ、飲み物等は各自でご持参下さい。

大宜味村教育委員会 TEL 0980-44-3006 FAX 0980-44-3020 社会教育係（担当：大宜見）



### 中学生のアイデア光る！シークワサー酢売り込み隊、コープに出動！

#### 大宜味中1年生コープおきなわ6店舗でシークワサー酢 SKS+S 実演販売

1月30日（火）、大宜味中1年生がコープおきなわ6店舗（アップルタウン、小録、国場、寒川、牧港、首里）において、シークワサー酢 SKS+S の実演販売を行いました。

買ってくれたお客さんにおまけをつけたり、くじ引きやクイズで当たった人にシークワサーをプレゼントしたり、各班でお客さんが楽しめるような販売方法を考え、販売スタート。



1日で6店舗合計1500本売るという大きな目標に向け、みんなで奮闘。最初は声を出すことも恥ずかしがっていた生徒たちですが、店の中を歩き試飲を配ったり、10分おきに店内放送を流したり、「恥ずかしがらない、嫌がらない、やってみる」の3つの約束を実践し、一人一人が自分のベストを尽くしました。目標の1500本にはおよばなかったものの、1日（しかも実質5時間余り）で1100本売り上げるという大きな成果を挙げました。「もっと売りたい！」と販売終了時間ぎりぎり（越していたけど）まで頑張っていた生徒たち。みんなのチャレンジと頑張りにより脱帽です！お疲れ様でした。



### 第99回国頭地区ミニバスケットボール 交歓会新人大会 女子Bチーム優勝!!



2月10日（土）、11日（日）に大宜味小・中学校体育館で開催された第99回国頭地区ミニバスケットボール交歓会新人大会に大宜味小学校ミニバスケット女子Bチーム、男子Bチームが出演し、女子が初優勝、男子が準優勝と素晴らしい成績を収めました。

放課後、週3～4回練習に励んできた女子。崎山星斗コーチは「練習で学んだ事が発揮できたので、成長を感じたし、自信にも繋がったと思う。」と喜びました。

惜しくも準優勝となった男子。課題の残る試合となりましたが、次回の100回大会では課題を修正し、記念大会での優勝に期待したいと思います。

2月25日（日）、国頭総合体育館で行われた辺土名地区ミニバスケットボールさよなら交歓会に大宜味小のミニバスケットチームと6年生が参加。学校対抗の一部リーグ、村対抗の2部リーグともに男子が優勝を収めました。志良堂寛太コーチは「優勝できたのは選手それぞれが試合中にいい判断をした結果。」と勝利を褒め称えました。男女バスケット部とも地元のコーチ指導の下、メキメキと力をつけています。今後の活躍に期待します。

### 辺土名地区ミニバスケットボール さよなら交歓会 男子1部、2部優勝!!



### やっぱりたき火の芋が一番! 平成29年度わんぱく体験団 第6弾「焼き芋を作ろう!」&修了式

2月17日（土）、旧大宜味小学校において平成29年度わんぱく体験団第6弾「焼き芋を作ろう!」&修了式が行われました。

今年度最後のわんぱくは焼き芋大会。さつまいもやじゃがいもなど自分の食べたい芋を食べたい分だけ持ってきたわんぱくたち。1、2年生は中庭の落ち葉集め、3年生～6年生は拾ってきた枯れ枝を鉋やのこぎりを使ってちょうどいい大きさに切ります。たき火の材料が揃ったら、次は火おこし。キャンプで火おこし経験のある高学年を中心に各班、焼き芋に大事な大事な火種作りに取りかかりました。



火が落ちてきたら、いよいよ焼き芋開始。濡れた新聞紙とアルミホイルで包んだ芋を釜に入れていきます。竹串がすっと入るようになったらできあがり。中には半焼けの芋もあったようですが、大きな失敗も大きなけがもなく（すり傷はケガのうちに入りません!）、お腹も心も満足な焼き芋大会となりました。焼き芋の後は修了式。今年皆勤賞16名、部活と両立して頑張った皆勤賞11名とたくさんの団員が活動に参加し、賞を受け取りました。

今年度の団員はわんぱく過ぎる子ばかりで苦労させられながらも楽しませていただきました。来年も元気いっぱい楽しもう!



### 第40回 塩屋湾一周トリムマラソン大会

大宜味村

本会場 塩屋小学校 START/GOAL

塩屋入口 塩屋大橋 屋古 田港 3km折り返し地点

宮城橋 国道9号線入口 白浜 白浜トンネル 塩屋湾 新大保橋 9kmコース左折 16.7kmコース右折

半崎トンネル 大保 給水

16.7kmコース中間地点

【種目】  
 16.7km(大保ダム周回コース) 高校生以上制限時間2時間45分  
 9km(塩屋湾一周コース) 高校生以上制限時間1時間35分  
 3km(塩屋湾折返し屋古コース) 1歳以上制限時間1時間  
 ※但し、小学生未満の参加は保護者同伴

9:30 16.7km スタート  
 9:40 9km スタート  
 9:45 3km スタート

参加者募集  
 2018年4月15日(日)開催  
 ただいま申込受付中!!  
 申込締切: 3月16日(金)

お問い合わせ: 塩屋湾一周トリムマラソン大会事務局(教育委員会内 TEL0980-44-3006 担当: 大宜見)



深読み大宜味村史 1 3 田港 2

大宜味村史は昭和 42（1967）年に村史編集委員会が発足し、委員長宮里金次郎、委員に山川元康、大山茂一、宮城福市、親川富二、宮城倉栄、宮城倉啓、大嶺福一、大城真秀、編集担当として山川岩美（編集責任者）、金城功、宮城長信、大城将保、平良幸七（写真）の諸先輩方によって編まれ、12年の歳月をかけて昭和 53（1978）年に資料編、同 54（1979）年に通史が発刊されている。

通史・資料編を合わせて1,100余ページにも上る村史編さんの基になった資料をめぐってみると、本文では削られた部分がほとんどであるが、興味深いものが沢山あり、順次紹介していきたいと思う。

なお、当時の言い回しや仮名づかいに味わいがあるので、出来るだけ原文通りとし、判読不能の文字は□に置き換えた。必要に応じて（）内に補足を加えた。田港での聞き取り調査のメモを二回にわたって紹介する。

1967年8月24日 午後3時 出席者：当山全吉、前田福藏、山城兼三、当山全正、前田福栄、松本嘉吉

艇船 64年前 22才 明治37年頃 兼三 田港区だけ 白浜区1人

帆船 一大島便 本部へ 株（前田福太郎、山城則政）

製糖 ダチ川水車 古宇利から種苗を買入れて始めた 7、8才頃かと

部落で作って個人へ広まる 内地人水車を据置して甘蔗を造り奨励。1番最初だと思う。各部落から集まってくさして居った。明治22年頃かと思う 内地人は2、3ヶ年して4ヶ部落で株を作って経営して2台でやった

でん粉工場 南洋殖産工場長 金城鍛助 細川 原料 伊平屋より搬入

女工25人 裁断工 全工員40人位 戦争まで続く ソテツナバ多く産する

製糖 田港区 318丁産する 後仲門、当山各30丁 35円区へ -5円して 最低6円

共同店 明治39年 主任兼三初まる 3ヶ年経営して失敗 部落経営

山工 質屋も経営して居留人もやって失敗した 質屋の売れなかった

昭和11年 青年共同店 責任 当山全保…番頭7ヶ月

3ヶ月60円 4ヶ月80円 弁償した 清二17才

日露戦争 松本千代松 1ヶ年後病死 勲八等

移民 明治37年 メキシコ炭坑へ 前田福藏等8人 山城盛正、山城亀一、山城太郎、安波連宗道

島袋松太郎、由本重次郎、大田宗道

ベンゲット移民 山城兼三 3ヶ年働く 170円旅費は返す契約 神戸までは自分の旅費 日給2円50銭

言葉が馴れたから3円00になる 請負でやった 1日10円ももうかった 大宜味27人組であった

トーモロコシ、メリケン粉、砂糖入れて食べた。第3土曜日に1ヶ月勘定 1ヶ月の食糧費は13円かかった。日露戦争勝利で大変氣勢が上がった

メキシコ—後から2回目来た5、60人位 村民が移住した

ペルー 明41年頃 松本松太 ブラジル 大正6年 松本松次郎 吉元吉次郎

村学校 今の東り門の屋敷 諸見里先生 字で傭ってやって居った

女—米1俵 役場吏員3円 教員6円 字の耕作当 米1俵 測量25¢ 外人夫20¢

夜学校 毛遊びして勉強しなかった

戦争中 避難民 島尻真壁の人が疎開 大川に

紡績女工 大正12年 大分紡績

歴代区長 村頭山城嘉康、2代前田福太郎、3代山城則政、4代吉本政保、5代当山全保

（戦后）6代松本松一、7代当山全栄、前田福笑、山城嘉助、前田福栄、山城嘉信、当山全正、前田福正 山城則政（自治功労賞）区長20ヶ年

議会議員 山城嘉康大正9年頃、前田福笑、山城嘉助、当山全信、当山全正（現議）

ウンガミ 馬の代りにかごに変わった 経費の問題

サーサイ 手踊りの簡略



# 村史編さんだより

第83号 2018年3月1日 大宜味村村史編纂係 44-8009 Eメール:sonshi@vill.ogimi.okinawa.jp

## 田港 字誌発刊に向けての大きな一歩



田港区で字誌編集の機運が高まっています！「字誌づくりについてアドバイスをして欲しい」という要望を受けて、村史編さん係では2月7日（水）部落常会の中で時間をもらい、字誌についての説明を行いました。

田港区では、17、8年前から字誌づくりの声が上がっていましたが、財政的な理由で断念した経緯があるそうです。その時に調査した資料などが残っており、気運が高まっている今、ぜひ形にしたいという強い思いで、3月には字誌編集委員会を立ち上げ、具体的な話を進めていきたいということでした。村史編さん係でも力になれることがあれば、協力していきたいと思えます！

- 字誌とは・・・自分の生まれたムラの歴史を知り文化を知ることは、自分の生きる基盤を再確認することである。それは“わたしたちムラ”への愛着と誇りにつながり、これから生きる方向を示し、祖先が築き上げてきた歴史を、「ムラの宝物」として後世に伝えていく礎となるもの。
- 字誌づくりの手順・・・
  - ①企画・構成（どんな字誌をつくりたいのか・目次づくり・予算・期間等の決定）
  - ②調査・取材（写真、手記、証書、辞令書等の資料収集・聞き取り、座談会等の開催）
  - ③原稿作成・印刷業者へ依頼（分担して原稿作成後、印刷業者に渡す）
  - ③校正（2～3回）（業者がレイアウトした原稿受け取り→赤ペンでチェックする、を繰り返す）
  - ④印刷・製本（文章の校正が終わったら、使う用紙や表紙、色、ケースなど決めて、印刷する）
 注・・・手順はこの通りだけではないと思うが、おおよそはこの流れで行われる。

### ～寄贈ありがとうございました～



饒波区の前田さんより、祖母（真謝カメ）が使っていたへー（衣装箱）と、おばが使っていたこうり（衣装入れ）の寄贈がありました。へーは、前田さんの祖母が大正のはじめに嫁いできた時に持ってきた嫁入り道具とのことでしたが、状態がとても良く、大切に使われてきたことが感じられました。

その他にも、前田さんが収集してこられたスクラップや本などの寄贈がありました。今後有効活用できるように考えていきたいと思えます。

寄贈ありがとうございました。



3/7（水）～11（日）の期間、国頭村民ふれあいセンターにおいて、沖縄県公文書館が所蔵する資料から、国頭とゆかりの深いものを紹介する「国頭村移動展」が開催されます。期間中は、写真の展示のほか国頭に関する映像上映があります。

3/10（土）講演会 14時～15時「写真が語るくんじやん—知ってほしい、国頭のおもしろさ！」

講師：宮城樹正（文化財保護調査委員長）

ぜひ足をお運びください！！





# 「しまふとうば」ぬくとぅ 25



うみがーみー

3月は本当に忙しくなる。子供も大人も自然の動物や植物も全てが忙しく動く時期である。

中学校の移転と統合された新しい小学校が開校して満2年になろうとしている。

開校から現在まで村長、小中両校長と私と4名（今年度は指導主事も仲間になった）は校門で登校してくる児童生徒にあいさつ運動を行っている（可能な限り）。

そして、この時期になるとあることに気付く。1年前の4月頃に私より背が低かった子が私を越して高くなっていることである。私が日本人男性の平均身長より若干？低いということもあるのだが中学生の多くが私を追い越していく。一日一日のあいさつ運動では気付かないことなのだが、一年単位でみると気付くのである。小学生でさえ私を越していく子がいるのを見ると頼もしくも思える。

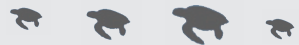
そしてもう一つ、村長や両校長先生はその職名が子どもに理解されやすいのだが、教育長や指導主事という職名は理解しがたいであろう。最初の頃は「どこの変なおじさんか？」ぐらいにしか思っていなかったのではないだろうか。と、ひねくれたりしていたが、最近は小学生から「きょういくちよう」と呼ばれたりするとついつい嬉しくなったりする。低学年では「教育長」ではなく、ことばとしての「きょういくちよう」なのだろう。

校門でのあいさつ運動は毎日が新しいドラマの始まりである。

中学3年生にとっては残りわずかな登校の日々となった。一抹の寂しさを感じる。

卒業後は自分を大事にして生きて行ってほしいと願う。

くくるしがたんつーづーくなくてい まぎちゅうなりようやー



## 今月の生きもの



## クマネズミ：ネズミ科

ど〜も。ぼくちん、クマネズミの赤ちゃんです。

沖縄の数少ない哺乳類の一員です。といっても、外来種。もともと沖縄にいなかった生きものなのです。比較的乾燥したビルや天井裏などを好んで住みますが、沖縄では森の中にもいます。オキナワトゲネズミが生息する地域の近くでも確認されており、彼らの生活を脅かす厄介者です。僕の特徴は耳が大きいこと。得意なことは木登り。可愛いって言うってくれる人もいるけれど、所詮ぼくは嫌われ者さ。悲しいな。

## 3月の行事予定

- |                       |                                |       |
|-----------------------|--------------------------------|-------|
| 1日（木）区長会              | 11日（日）軽スポーツ講習会（ニフレホール・ラダーゲッター） |       |
| 2日（金）「体験の翼」報告会        | 16日（金）幼稚園修了式                   | 3月15日 |
| 9日（金）大宜味中学校卒業式        | 19日（月）大宜味小学校卒業式                |       |
| お別れ遠足（塩保）             | 20日（火）大宜味小・中学校修了式              |       |
| 10日（土）北部地区スポーツ推進委員協議会 | 21日（水）春分の日                     |       |
| 研修会及び総会               | 27日（火）ほのぼのパーティー（喜保・塩保）         |       |

今年初めて体験の翼交流団に参加させていただきました。西会津の真っ白な世界に、美味しいご飯に、学校に、子ども達の盆踊りに感動しました。でも一番良かったのはエイサー。寒い中笑顔で演舞した大宜味交流団。素晴らしかった!